(財)いわき市教育文化事業団シンボルマーク

文化財ニュース いわき

第 60 号

平成 10 年 12 月 22 日

財団法人いわき市教育文化事業団
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
（いわき市考古資料館内）
TEL 0246（43）0391

根岸遺跡第11次調査

— 平成10年度範囲確認発掘調査 —

根岸遺跡の範囲確認調査は、地元下大越および藤間地区の皆さんの御協力により、今年度で９年目となります。これまでの調査によって、郡庁院や正倉院が確認され、奈良～平安時代の磐城郡役所の全体のようすが明らかになりつつあります。今年度は、まだ調査を行っていないB地区とE地区の２地点と夏井廃寺跡の区画施設を確認するため、約１カ月の予定で12月３日から発掘調査を開始しました。これまでに郡役所設置当初の正倉跡と考えられる建物跡がみつかり、夏井廃寺跡からは区画施設と大量の瓦が発見されています。

奈良～平安時代の磐城郡役所跡（根岸遺跡）と関連遺跡

とじておきましょう。

B地区の調査

側柱のみの倉庫跡のようす　（第59号掘立柱建物跡）

柱穴と木炭窯を慎重に掘り下げているようす

B地区は、6年前にこれより南側を調査しましたが、その時は、縄文時代の遺構・遺物が発見されただけでした。

今回の調査では、奈良～平安時代の掘立柱建物跡1棟と建物跡より古い簡易木炭窯が5基発見されました。

掘立柱建物跡は、柱を建てた穴が9個見つかり、東西に長い桁行5間以上×梁間3間の規模であることがわかりました。

木炭窯は、長さ1m×80cm前後・深さ50cmの長方形で、壁が熱を受けて赤く、底面からは木炭が多量に出土しました。

とじておきましょう。

E地区の調査

掘立柱(ほったてばしら)による総柱(そうばしら)の正倉(穀倉(こくそう))跡のようす　(第60号掘立柱建物跡)

今回、中央沢部の入口付近南側(E地区)の丘陵裾部を調査したところ、今まで確認された正倉跡とはやや異なる建物跡が検出されました。

この建物跡は桁行(けたゆき)4間×梁間(はりま)3間の総柱構造(高床式(たかゆか))の掘立柱建物跡(総柱構造は礎石をもつ建物跡しか発見されていなかった)です。柱の直径は40cmと太く、柱と柱の間は約2.1mあり、床面積は50m²を越える大きな穀倉と考えられます。この建物跡は、その構造から磐城郡役所が設置された当初の正倉跡と考えられます。

根気よく柱穴を探しているようす

とじておきましょう。

夏井廃寺跡７次調査

― 区画施設の確認調査 ―

根岸遺跡（郡役所）と夏井廃寺跡（郡寺）のようす

塔　　跡（昭和62年度調査）

今年度調査のようす

夏井廃寺跡の調査は、10年ぶり７回目となります。前の調査では、塔・金堂・講堂などの中心伽藍と、西側を区画する土塁が見つかっています。

今回の調査は、伽藍の東側の区画施設を調査する目的で行われています。

調査は、県指定史跡塔跡の南東の水田に試掘溝を設定し、発掘を開始しました。現在は、溝跡や瓦が集中する瓦溜め等が見つかっています。瓦溜めからは軒先を飾った蓮華紋の瓦も出土しています。今後の調査が楽しみです。

とじておきましょう。